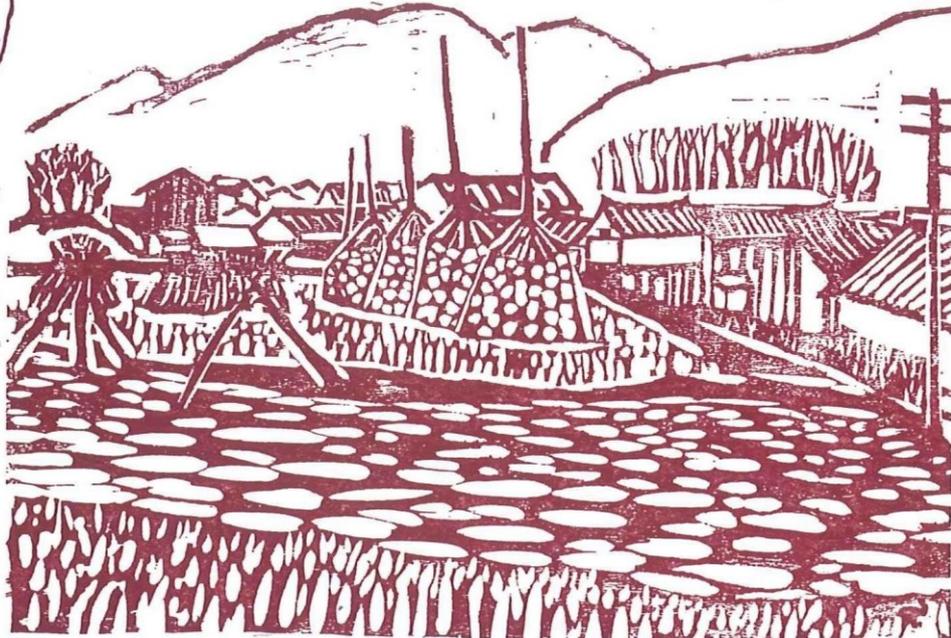




2011 年元旦

昨年のご援助
有難うございま
した。今年も
よろしく御願
致します。



春を俟つ里・栢森

松尾

野山の不思議 12 虫こぶ

この項は健全会友の会の機関紙「ふれあい広場」1月号に掲載してもらったものを編集者の了承を得てここに転載するものです。



みなさん、野山で木の枝に写真のような球形のものがくっついているのを見たことはありませんか。

これはナラメリンゴタマバチという小さな蜂がコナラやミズナラの木に作る「虫こぶ」で「ナラメリンゴブシ」と呼ばれています。いかにもリンゴみたいで美味しそうですね。大きさはピンポン玉より少し小さめ。

実はこれは子育ての「ゆりかご」なのです。この中に産みこまれたハチの卵は、孵化するとこのこぶに守られて育ちます。ところがその幼虫を狙って、この虫こぶに産卵する虫も居るのです。上

には上がっているものです。

「虫こぶ」は「虫癭(ちゅうえい)」とも呼ばれ、タマバエ、タマバチ、カイガラムシ

その他の生物が植物に寄生し、枝や葉など植物の組織を異常変形させたもので、形は様々ですが、多くは子育てに使われます。

虫こぶは植物にとっては迷惑千万なものですが、人間が寄生者の出す物質を「薬」として活用している場合があります。有名なのはマタタビ酒でマタタビアブラムシという昆虫がつくった変形果実をホワイトリカーに漬けて造ります。(写真はいずれもナラメリンゴブシ。一昨年5月二上山で)



懐かしかった長崎の山々 ③ 八郎岳

卒後50周年記念の高校同窓会が長崎市内で行われた2010年10月21日、朝から八郎岳に登った。参加者は同期同窓生9人、女性2、男性7。八郎岳は海拔590m、長崎市内の最高峰だ。この山には小さい時からよく登った。たしか小学1年か2年の頃、父親に連れられて兄弟・従兄弟で登ったのをはじめ、高校2年時にはクラスの男子十数人で登り、途中で飯盒炊爨(はんごうすいさん)をしながら唐八景(4月の旗あげで有名)まで縦走した。これは今でも楽しく思い出す山行だ。勿論地学部の仲間たちでも登った。

この日朝から長崎バスに乗って平山登山口に向かった。バスは大浦、戸町、土井首など懐かしい地名のバス停を経ていくが、家並も風景も大きく変わっている。平山バス停も記憶では田畑の中の小集落に在ったが、何軒もの商店が並ぶ都市近郊の景観の一部になっている。

しかし、墓地の手前を左折して雑木林の登山道に入ると、昔と変わらない感じがしてキョロキョロ見回しながら、急坂を進んで行く。

一時間半かかって山頂に。ここは樹木のない草原状になっていて、一気に眺望が広がる。眼前の海は大小の島々を浮かべて長崎湾から東シナ海へと広がっており、左手には南南西に向けて長崎(野母)半島が山々の連なりとなって伸びている。造船所が目立つ香焼島は今では陸続きで長崎半島の一部になっており、その先の伊王島も橋でつながると言う。その左にはかつて炭鉱で栄えた高島が浮かび、さらにその先には軍艦島と呼ばれる端島(はしま)が在るはずだが、いずれも現在では無人の島となっている。

眼下の平山団地をはじめ新興住宅地が各地に出来ており、それらを結ぶ道路網が縦横に走っている。島も含めて名実共に長崎市の一部に組み込まれている感じだ。しかし長崎半島全部に西彼杵半島の大部分などをも行政区域とした大長崎市が、住民特に端々の人々にどんなメリット、デメリットをもたらすのだろうか？

柔らかな秋の陽に暖められながら、昼食を摂り、食べつつ語っては景観を楽しんだ。下りは同じ道をたどった。この山は50年前にも鹿が棲むところとして知られていたが、この日も下る途中で鹿と出会えて嬉しかった。

こうして楽しかった同窓会と登山旅行は終わった。12月になってそれらをまとめた立派な写真アルバムが送られてきた。幹事の方々に改めて御礼を申し上げたい。(132号完)